

ハイライト:

宮崎国際大学教育学部では第7期生が卒業します。今号は第7期生の声を特集としました。



昨年度卒業式後の様子

宮崎国際大学教育学部ニュースレター

ご卒業おめでとうございます!

宮崎国際大学学長 村上 昇



卒業生の皆さん、ご家族/御親族の皆様、おめでとうございます。ところで、この「おめでとう」という言葉は結婚式や誕生日のお祝い、優勝した時や「新年あけましておめでとうございます」の挨拶の時など、色んな場面で使われます。私が、今日、皆さんに送る「おめでとう」は、4年間頑張ったことに対する礼賛（らいさん）の気持ちでの言葉です。

「大学時代で、もっとやっていたらよかったと思うことは何ですか」と言うアンケート調査を良く目にします。いわゆる「大学時代の後悔ランキング」ですが、「大学でもっと勉強しておけば良かった」という後悔が最上位にあります。しかし、皆さんは、1年生の時から鍛えられ、4年間本当に良く勉強しましたので、この後

悔は無いでしょう。だから、「礼賛」の気持ちの「おめでとう」を言いたいのです。

さて本稿では、「はなむけの言葉を書いてください」と依頼されましたが、私の経験から言えることは、「新しい人生、いつからでも始められる」と言うことくらいです。30歳からでも、40歳からでも、何歳からでも、新たな人生は作り出せますし、やり直せます。それには勇気が必要であり、過去の後悔や失敗、あるいは過去の栄光や現在の栄誉/名声にこだわらないことが前提です。

最後に、皆さんの多くは、これから「先生」と呼ばれる職業に就く方が多いでしょう。「先生」という職業は人の人生に多大な影響を与えることを肝に銘じて、見本となる立派な人間に成長してください。私の言う、立派な人間とは、人の痛みがわかる人間であり、常に謙虚で、誰もが幸せになって欲しいと願っている人です。

卒業おめでとう

教育学部准教授 田川 一希



この大学の最大の特徴は「勉強せざるを得ない」環境です。4年間、レポートや指導案、卒論、そして試験勉強と必死に取り組んで来たことと思います。皆さんの姿を傍らで見ながら、努力に感服することも多くありました。

卒業後は「勉強しなさい」とは言われなくなるでしょう。それでも私は、みなさんに勉強を続けてほしいと思います。なぜなら、勉強は人間性の向上に役立ち、具体的には人としての優しさを培う手段になるからです。

思いやりを持って他者に接することができるかは、相手の立場をどれほど想像できるかにかかっています。その想像力の源泉として、体験は重要ですが、一人で得られる経験には限界があります。ここで勉強が役立ちます。先人が作り上げた知識や理論を学び、組み合わせることは、他者の状況への理解を深める手がかりになります。

ですから、勉強を続け、人間としての魅力を高め続けてください。そして、素敵な人生を歩まれますことを祈念しております。

卒業を控えた4年生の声

宮崎国際大学で得た学び



教育学部 4年 酒井 悠花
宮崎県公立小学校教員内定
(宮崎県立日南高等学校出身)

私はこの大学で、教科・教職に関する知識や指導技術を学ぶとともに、ボランティア、サークル、学友会での経験を通して、自分の視野を広げることができました。特に、教員採用試験に向け、同じ志をもつ学友と学び合い、励まし合ったことはかけがえないものになりました。

いま思えば、教員採用試験は私一人の力では絶対に勝ち取ることができなかつたと感じています。教員採用試験が近づくにつれて不安や緊張が増す中で、同じ境遇で共感をつかち合える学友との絆が私の心の支えとなりました。この感謝の気持ちを忘れず、充実した教員生活を送ることができるよう、教員になってからも共に学んだ学友との交流を大切にしていきたいです。

これらの学びや経験は、小学校教員として働くうえで、自分を支えてくれるものだと感じています。宮崎国際大学で身に付けたことを生かし、児童に安心感を与えることができる教師を目指し、これからも学び続けます。

保育の学びを振り返って



教育学部 4年 守川 知里
宮崎市職員(保育士・幼稚園教諭)内定
(宮崎学園高等学校出身)

私は大学4年間で、保育に関する知識・技術を講義や演習・実践を通して学ぶことができました。その中でも特に社会の変化に合わせて保育も変わっていくのだという大きな気づきがありました。大学入学当初は、保育の内容を学べば良いと思っていましたが、保育が変化してきた時代背景を学修する中で、今後自分が働き始めてからも「社会の変化に合わせた保育を行っていかなければ」と強く考えるようになりました。

講義では、現代の保育の問題や評価・改善を行うことの重要性を学びました。そして、演習で課題解決の方法を考えたり、実習の中で自身の保育を振り返って評価したり、反省をもとに改善に努めたりすることができました。

この学びは、今後も変化する社会の中で、様々なニーズを持つ子どもや保護者への支援を行うために重要だと思います。大学を卒業してからも学び続ける気持ちを持ち、自身の保育を評価・改善し、保育の質向上を目指していきたいです。

宮崎国際大学で学んだこと



教育学部 4年 坂本 捺海
宮崎県公立小学校教員内定
(宮崎県立都城西高等学校出身)

大学生活を振り返ると、勉学やサークル、友人との関わりなど、全てにおいて充実していたと感じています。私はその中でも特に教育に関する知識や技能などを学ぶとともに、教員に必要な人間性も高めることができたのではないかと感じています。

また、教育実習以外にも幼稚園実習、保育園でのアルバイトやボランティア活動を通して様々な子ども達と出会うことができ、小さい子ども達と関わることで小学校につながる発達段階を学ぶことができました。この出会いは私にとってとても大きな支えになりました。

そして教員採用試験の勉強が辛いと感じた時、触れ合った子ども達の楽しそうな顔を思い浮かべることで気持ちを奮い立たせて勉強に励むことができました。

このような学びや経験は小学校教員を目指す者にとってとても大切なものです。4年間で身に付けた力を活用し児童一人一人を大切にするとともに感謝の気持ちを忘れずにこれからも努力していきます。

大学生活を振り返って



教育学部 4年 渡司 陶吾
都城市職員(一般事務)内定
(宮崎県立都城西高等学校出身)

私の大学生活を振り返ると、学業からサークル活動までとても充実していたと感じます。サークル活動では、バレーボールサークルに所属しており、毎週、他学部、他学年の学生とバレーボールを通して交流をしました。サークル活動を通してコミュニケーション能力を向上させることができました。

学業については、講義を通して幼児教育や特別支援教育に関する専門知識など多くのことを学ぶことができました。また、プログラミングやエクセルに関する内容についても学ぶことができとても充実していました。

就職について、私は2年生の時から公務員を目指すようになりました。教育学部だったので、就職活動に不安がありましたが、本学では、公務員試験対策講座やSPI試験対策講座などがあつたり、先生方が面接の練習をしてくださったりなど十分に試験対策をすることができました。

今後社会に出て市役所職員として働く際にも、常に学び続ける精神で頑張りたいと思います。

学生作成記事

4年間の思い出と後輩へのメッセージ

教育学部4年生4名が、思い出や後輩へのメッセージについて語り合い、記事を作成しました。

楽しかったこと

入学当初からコロナの影響でオンライン講義が多く、行事も少ない4年間でしたが、自分たちで定期的に企画して行った学部会が印象に残っています。バーベキューやクリスマス会、就活決起会、就活お疲れ様会などを行い、学年全体の絆を深めてきました。2月にも最後の学部会を企画しています。4年間を通して定期的に学部会を行い、大学以外の場でみんなで談笑できたことはすごく良い思い出です。

印象に残っている授業

印象に残っている授業は、体育、体育実技、保育内容指導法(環境)です。体育、体育実技では、みんなでチームになって活動したり、ペアで活動したりする機会が多く、入学して間もなかった私たちの仲をよくするきっかけ作りとなりました。保育内容指導法(環境)では、学校の周りに生息している生き物を採集し、マップにまとめました。新しい発見があり、楽しい活動でした。

自分を支えてくれたもの

辛いことがあった時に自分の支えになっていたのが友人や先生たちでした。特に教員採用試験の期間は、何度もくじけそうになったかわかりません。「辛いのは自分だけではない」そう言い聞かせながら、みんなで声を掛け合い、励まし合いました。また、周りの友人が頑張っている姿を見て、自分も頑張ろうと思えました。自分たちの自信につなげるためにも、大学での対策講座とは別に休日に集まって自主的に試験対策を行ったりもしまし

た。「現役合格」という言葉を胸に、全員で走りきることができました。みんなで支え合ったからこそ、全員合格という結果を成し遂げることができたと思います。

後輩へのメッセージ

【つながりが大事】 私たちは、コロナ禍の大学生活を送ったため、先輩、後輩との関わりのあるなしに差がありました。4年生になって、学友会の方々が企画してくれた球技大会などで、ようやく他学年、他学部との関わりができました。大学の仲間と、講義の情報やプライベートな時間などを共有することはとても楽しいし、良い経験になります。多くの人とのつながりを持って、自分の見聞を広げるといいなと思います！

【悔いのない生活を送って!!】 大学の4年間は青春時代そのもので、行動すればなんでも出来る最高の時間です。あの時こうすれば良かったな、という後悔がないように、勉強も、私生活も、何もかもを充実させてほしいです!! 4年間は、長いようであつという間です。限りある時間を、自分の夢や楽しみでいっぱいにしてください。



左から教育学部4年 後藤政基(佐伯鶴城高校出身)、白羽根遼(延岡星雲高校出身)、野寺咲希(宮崎大宮高校出身)、山口莉未紗(宮崎西高校出身)

卒業論文発表会を終えて

教育学部4年 柿原 まなみ
熊本県公立小学校教員内定
(熊本県立人吉高等学校出身)



私は「小学校理科の月の満ち欠けにおける、地球視点から宇宙視点への視点移動を可能にする指導方法の検討－教員を目指す大学生の実態調査を踏まえて－」というテーマで卒業研究に取り組みました。1月末に行われた卒業論文発表会に向けての要旨作成や発表資料の準備は、自分の研究の取り組みについての振り返りにつながり、当日は自信を持って1年間の研究の成果を発表することができました。

また、発表後の質疑応答では、学生や先生方からの質問に答える中で研究に不足しているものに気付いたり、様々なご指摘をいただいたことで自分だけでは考えつかなかった新たな視点を得たりすることができました。

卒業研究や発表を通して、課題を見つけその解決策を考えたり資料を整理・分析したりする力や、プレゼンテーションの能力が身に付いたと感じています。今後は身に付けた力を教員として働く中で生かしていきたいです。

卒業論文発表会講評

教育学部教授 渡邊 耕二



教育学部7期生の卒業論文発表会が行われました。専門的な知識の整理と獲得、学術的な課題に新たな知見を導く問題解決力、A4一枚に卒業論文の概要を纏める力、分かりやすいスライドを作成し、発表するプレゼンテーション力、担当教員の指導を真摯に受け止め、議論を重ねるコミュニケーション力、発表会に向けて粘り強く取り組む姿勢、と卒業論文はまさに4年間の学修の集大成です。

卒業論文発表会では、4年生それぞれの学びの集大成を目の当たりにしました。全てのこと十分にであったかと言えば、必ずしもそうではなかったかもしれません。ですが、それによって、専門的な知識、書く力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、取り組む姿勢などに対する今後の課題も明確になったことと思います。例えば、渡邊ゼミの学生は、算数教育の背後にある数学を考察しました。数学を正しく理解し、正しく話すことは大変なことです。だからこそ、苦手な子どもも多いのではないかと考えています。そこに挑戦したゼミ生には、卒業論文発表会を十分に振り返り、算数を専門にしていると堂々と言える小学校教員を目指してほしいと思っています。

卒業論文発表会をしっかりと振り返り、それぞれの卒業後の進路とキャリアに繋がることを期待しています。

〒889-1905 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地
電話:0985-85-5931 FAX:0985-84-3396



国際教養学部 比較文化学科
教育学部 児童教育学科

入試広報部からのお知らせ

お問合せ先

TEL 0120-85-5931

MAIL admissions@miu.ac.jp

EVENT情報

オープンキャンパス 開催月：7・8月（予定）

内容：学部説明、体験授業、卒業生・在学生体験発表、学食体験、個別相談会 など

週末キャンパス見学会&相談会 開催回数：年8回 開催時間：10:00~12:00

内容：学部説明、入試相談、受験対策講座、キャンパスツアー など

※日程等の詳細は決定次第本学HPにてお知らせします。

個別の見学会・相談会も受け付けております。ご希望の方は事前に入試広報部までご連絡下さい。

オープンキャンパス・
週末キャンパス見学会&相談会
についてはこちらで詳細を
ご確認ください。



LINE相談受付中

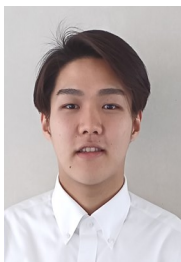
「入試制度について知りたい」など、見学会に行くことが出来ない、という高校生・保護者の方のために、公式LINEアカウントのチャット機能をオープンしています。お気軽にお問合せください。



QRコードを
読み込んでお友だ
ち追加してね！



小学校教育実習を終えて



教育学部 3年 石崎 結大
(宮崎県立宮崎工業高等学校出身)

小学校での教育実習を振り返ると、実習前は子ども達を前に授業ができることや現場の先生方と関われることに喜びを感じていました。

実習では2年生の学級に入りましたが、子ども達の優しさや頼もしさを感じる事が多くありました。例えば、欠席している友達のために手紙を書いたり、誰からも指示されることなく教室の清掃活動に取り組んだりする姿が見られました。

また、実習を通して、自分の強みや改善点も明確に理解することができました。特に、45分の授業において、「めあて」と「まとめ」の整合性を図りつつ、本質を捉えた授業づくりをするためには、学生時代から質の高い教材研究に継続的に取り組むことが必要だと強く思いました。何より、実習校の先生方が親身になって声を掛けてくださるなど、手厚くご指導して下さったことが有難かったですし、教員になるという思いも一層強固なものになりました。

教員採用試験の早期化に対応した対策講座の実施について

学生教職支援センター長 有嶋 誠

宮崎県を含む九州8県の公立学校教員採用試験（第一次選考試験）は、昨年度は7月中に実施されましたが、文部科学省が令和6年度実施の採用試験を前倒しした標準日を指定したために、本県を含む九州各県は例年より約1か月早い6月16日に第一次試験を実施することとなりました。そのため、学生教職支援センターでは、採用試験の早期化に対応するために、3年生を対象とした教員採用試験対策講座を例年より約2か月前倒しして開始しました。

期間(実施予定)	回数	講座の内容
4月~6月	27回	教職教養・教科専門等
6月16日		公立学校教員採用選考試験(第一次選考試験)
6月~7月	12回	個人面接・グループワーク 模擬授業等
7月27日~8月4日		公立学校教員採用選考試験(第二次選考試験)

第一次試験合格を目指した対策講座では、「教育原理」などの教職教養に関する講座と「国語」などの教科専門に関する講座を実施しています。第二次試験合格を目指した対策講座では、個人面接、模擬授業、グループワークなど試験内容に対応した講座を実施しています。今年度の第一次試験まで、残り4か月となりました。受験を希望する学生が対策講座に真剣に取り組んでいる姿を多く見かけます。学生教職支援センターは今年度と同じように全員合格を目指しています。